

フランス

ラ・アーグ再処理工場の

停電事故

# フランスのラ・アーグ再処理工場で危機一髪の事故

## あわや大事故

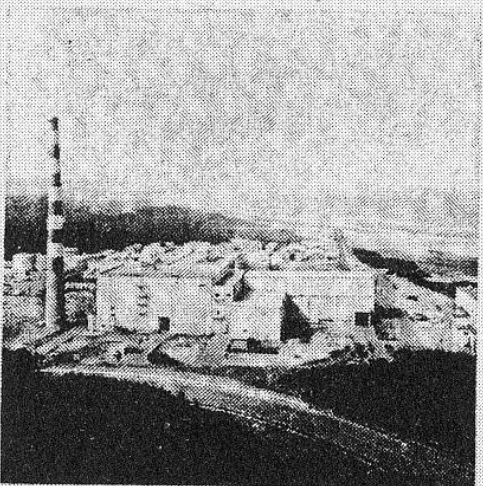
動燃東海工場のモデル

放射能  
廃液が  
沸騰

操作ミスで  
火災が発生

仏の核燃料  
再処理工場

冷却電源が一時ストップ



ラ・アーグの工場をモデルにしている動燃の東海再処理工場

電気系統が故障して……

1980年6月11日 毎日新聞

再処理によって発生する高レベル放射性廃液は、強い放射線を受けて水が分解し、爆発性の気体「水素」が発生する。

絶えず冷却して、完璧な管理をおこなわないと爆発する超危険な液体である。

最もこわいのは  
配線が寸断され...

**所内が完全停電となる  
ステーションブラックアウト**

1980年4月15日 フランスのラ・アーグ再処理工場で事故が発生。当日、プルトニウムを処理する作業が開始される直前に、フランス全土の高圧送電線から工場向けに送られていた電気系統が故障したため、再処理工場の主電源が停電。



電源が自家発電機に切り換えられたが、のちに主電源が回復したため、ふたつの大電圧がかかってトランスが破壊され、工場内のすべての電気回路が停止した。



タンク内の高レベル廃液は、セシウムやストロンチウムなどが大量に溶解した放射性溶液であり、廃液が沸騰しはじめ、放射性セシウムが蒸気となって出る末期的事態を迎えた。



工場から20キロメートルにある兵器庫から緊急発電装置をトラックで運び込んで、ぎりぎりのところで爆発を食い止めたが、そのまま爆発していれば、ヨーロッパ全土は消滅していたと言われる。